

NEWS

ぼうさいこくたい2019@NAGOYA 参加

10月19日(土)・20日(日)午前10時から名古屋市ささしまライブ24エリア(名古屋市中村区)にて内閣府による「ぼうさいこくたい2019@NAGOYA」が開催されました。

同催事は、“大規模災害に備える -まなぶ・つながる・つよくなる- 防災を、もっと日常に”をテーマに、災害に際し「自助・共助」の取り組みを促進し、一人ひとりが防災の意識を高めることで災害の被害を抑えることを目的としています。子供から大人まで防災・減災を学べる日本最大級の防災イベントとして約15,000人が来場しました。

当協会のブースは、名古屋コンベンションホール3階に設置され「災害廃棄物処理協力体制による早期復旧支援」と題して、協会の取り組みについて広報活動を展開しました。

協力団体として(株)ダイセキ環境ソリューションは『愛知県内全市町村との災害廃棄物処理協力体制構築による安心・安全な地域社会づくりへの貢献』として、岡山県の平成30年7月豪雨災害に係る災害廃棄物処理業務、仙台市の東日本大震災津波堆積物処理残渣物処理の活動について写真パネルを展示しました。当日は(株)ダイセキ環境ソリューション取締役副社長山本浩也氏が、当ブースの来場者に災害廃棄物処理について説明をされました。

午後4時30分から「ぼうさいこくたい2019 D.Waste-Net 災害廃棄物処理に民間力を！」が同

ホール405会議室にて開催され、開会挨拶を環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長名倉良雄氏が述べ、登壇者の紹介がありました。

基調講演1は「災害廃棄物対策について」と題し、名倉課長から、災害廃棄物の発生量(東日本大震災他)及び処理期間、これまでの災害廃棄物対策の教訓、災害廃棄物処理の三原則(安全、スピード、費用への配慮)、他について講演がありました。

基調講演2は「災害時の民間事業者の支援のあり方」と題し、国立研究開発法人国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長 大迫政浩氏から、国内の大雨等の発生頻度、台風19号の豪雨被害、民間事業者との連携による災害対応力の向上、他について講演がありました。

パネルディスカッション「災害廃棄物の早期処理に向けた官民連携のあり方」は9名のパネラーで行われ、(公社)全国産業資源循環連合会専務理事森谷賢氏から、“適正処理を大前提に、処理の「受け手」から資源の「創り手」へ”と題し、連合会の沿革、事業展開、加入状況他について話がありました。

・登壇者氏名(敬称略)

氏名	所属
大迫 政浩	国立研究開発法人 国立環境研究所
森谷 賢	(公社) 全国産業資源循環連合会
松田 裕雄	(公社) 大阪府産業資源循環協会
藏本 悟	(株) 西日本アチューマツククリーン
舟山 重則	(一社) 日本災害対応システムズ
出野 政雄	(公社) 全国解体工事業団体連合会
大久保英也	(一社) 日本建設業連合会
石垣 和子	内閣府
名倉 良雄	環境省

